

## <第2回えどがわく・荒川市民会議（第8期）>

1. 日 時 平成23年9月20日（火） 18:00～20:40
2. 場 所 タワーホール船堀 401 会議室
3. 出席者 11名（全構成員13名）  
【市民委員】  
中嶋美南子（議長）、菅野 信夫、谷川 貞夫、佐藤 正兵、  
染谷 愿、大塚 一夫、伊藤 浩子、福田 英二  
【行政委員】  
信田 智（小島 優 代理）、立原 直正、長谷川和男

### 4. 会議内容

#### 1 開 会

#### 2 議 事

##### (1)報告および情報提供

##### ①荒川下流河川事務所

○荒川放水路建設から100年シンポジウムの開催について（資料：同ちらし）  
⇒荒下：11月3日に足立区の東京芸術センターでシンポジウムを行う。大洪水を教訓として開削された荒川放水路を皆さんに知っていただくことと、自分たちの住んでいる地形を知っていただき防災意識の向上させることとをめざしている。午前はクルージング、午後はシンポジウムで若い人も楽しめるプログラムとなっている。家族等に広めていただき、参加してほしい。

##### (2)討議

##### ① 地区別計画の検討について

- ・[議長] 江戸川区の洪水のハザードマップも見ながら検討してほしい。「荒川将来像計画2010地区別計画【たたき台】〔江戸川区〕」をページを追って見て行きたい。P2とP3についてどうか。
- ⇒江戸川区：前回、治水等防災関係に関しても記述を加えたいという提案をしたが、配布資料のとおり、目次の2.3に「災害に強い安全・安心を守る川づくり」という項目を追加したい。具体的には「スーパー堤防整備などの堤防強化の推進」「災害時における河川敷等の有効利用」「地域における防災意識の向上」の3点で、前回説明した内容を加える。次回以降、案文を提示するので検討いただきたい。
- ・[委員] 今後10年ということで我々がいろいろと希望を申しあげてきたが、これ

らは今後 10 年でやろうとしているのか、もっと先までのことなのか。

- ・[委員] P.5 で 10 年計画として提示している。
- ・[議長] 位置づけは今後 10 年間の中期計画ということで入れている。
- ・[議長] 平成 23 年から 33 年ということになるが、すぐ過ぎてしまうイメージがある。実現できればいい。P.4「計画のねらい」と P.5「計画の位置づけ」について、何か意見は。
- ・[委員] ここに「今後概ね 10 年後の望ましい姿を示した」と確かに書かれているので、その通りだと思う。
- ・[議長] 前の方を見ると 22 年 7 月に構成ということで案が出てきて、いつから 10 年とは明記されていない。23 年度中にこれを完成させるということだから、実際の 10 年とズレが出てくる。最後に「維持・管理に重点を置き、市民との協働による河川管理を進めていきたいと考えております」とあり、この点が前と違っている部分である。次に P.6 の「検討体制」に進む。
- ・[委員]：前回、市民会議の形が少し変わるかもしれないと伺ったが、2010 年にこれが作られたとしたら、「えどがわく・荒川市民会議」という名前で残っているのでそれ以上書きようがないからいいのかなと思う。
- ・[議長] 今年 1 年だけという話があったにも関わらず、これから 10 年のところに市民会議がまだ存在しているように見えるが。
- ・[荒下委員] 作った当時の組織体が残ってなくても大丈夫だと思っている。今回の推進計画は全体荒川市民会議というところで検討して、提言してもらい、それに基づいて推進計画を作っているのだから、そこで議論された内容が重要であって、それが組織体として残っているかどうかというのはさほど重要ではない。
- ・[委員]「えどがわく・荒川市民会議」という名前が変わるかもしれないが、特に問題ないと思う。
- ・[荒下委員] 市民会議の中で実際に意見をいただいているので、この名前で残させていただきたい。地区別計画が終わったら、次の組織体のことを考えるので、これが一つの仕切りである。
- ・[委員] 地区別計画を作るまでということか。
- ・[委員] 河川整備計画に基づく新しい組織について先日の代表者会議で討論され、会議のメンバーからの意向としては、各市区が参加する今のような形態で残してほしいという意見が多かった。名前は変わっても、何らかの形で同じようなものが残る。
- ・[議長] 次に P.7 についてどうか。7 期で話し合った内容は、だいたいこの中に入っていると思う。「災害に強い安全・安心のまちを支える川づくり」はちょっと心配だが、3 つの大きな柱で川らしい水辺へ創生していくという基本理念はよろしいか。ここが揺らぐと後の部分が違ってくる。その下の推進するための 4 つの取組みについてはどうか。
- ・[委員] 4 つ目の市民が参加して適正な河川敷利用を実施していくための市民と区の協働というのが新しいことである。荒下で自然地管理検討会議が行われて

おり、足立区の千住桜木地区と墨田区の隅田水門のすぐ下の所とをモデル地区にして、市民が参加するような形でどういう自然地を作るのか、どういうふうに管理していくのかが議論されている。墨田区は区がそれなりに関わって進んでいるが、足立区は具体的なイメージが出てきていない。なんとかそれに市民参加でできる形を作ろうと議論されており、江戸川区はいろいろな形で市民参加のものができているので、あれをイメージしながら他にも広げるのであればやっていけるのかなと思う。

- ・[議長] 自治体に任せずに市民が協力してやっていこうという考え方が 7 期の後半から出てきている。江戸川区は中土手、下平井、クリーンエイドの 3 つの団体が河川管理につながるような活動をしている。
- ・[委員] 平井の自治会はそれなりに関わっている。
- ・[議長] 千本桜もそうではないか。江戸川区は結構先に進みつつあるのかなと思う。結構活動している。今 4 番目の部分について出たが、あとの 3 つはいいか。今台風が来ているが、「災害に強い安全・安心を支える川づくり」についてはどうか。
- ・[委員] 防災拠点ができている。
- ・[議長] 計画はあるが。書かれていることはいいか。P.8 に P.7 の具体的なことが出ている。
- ・[委員] 東京都の防災センターの他に、荒下としても防災センターを持っているが、災害時両方の連絡機構等お互いにどういうバックアップをしているのかここにはないが、荒川一つみても両方がかみ合うことがあるが、その辺はここに提示しないのか。
- ・[荒下委員] ここはソフトではなくハードを基本として書いていて、そこまで大きく広げるとしたら書く内容が広がり、川からはずれる気がする。川という視点からの書き方である。
- ・[委員] 広域避難場所も荒川に沿った場所が設定されているところがあるが、自治体の中の東京都の場所として使われているわけで、荒下としての避難場所ではないという考え方があって・・・。
- ・[議長] 今やっているのは江戸川区である。
- ・[委員] 江戸川区でもそういう形を両方からとってできあがったものとしてこういうふうに定義をしているというか、その辺がわかりにくい。
- ・[委員] 先は長いので、文面に沿ってやっていかないか。
- ・[議長] 防災機能としての 2 点についてはどうか。他にいい場所が江戸川区にはない。計画を作ってから東日本大震災が起きたが、それも加味してやはりこの場所という考え方でよいか。
- ・[委員] 心配なことがある。広域避難場所とした場合堤防も含めた河川敷も入るが、液状化の問題がある。スーパー堤防の出来ている部分は安全だとして、その他の堤防が未完成の部分は河川敷に避難して安全を守れるのか。地質自体が保障されているのか。

- ・[荒下委員] 地質の話をする、液状化で人が吸い込まれる等は想定されず、構造物に対する問題の方が大きい。問題なのは、震災時の避難場所が河川敷ということで津波が来るのではないかということである。津波警報などが発令された場合に、我々や江戸川区が市民側に情報を出さしていただき、広域避難場所として河川敷やスーパー堤防に逃げるかどうか判断する必要がある。避難所と避難場所は別個で、避難場所は火から自分を守る、一時的に逃げる場所という位置付けで、そこで生活することをイメージしているわけでない。
- ・[委員] 東京湾に津波が来たら、東日本大震災くらいの地震では想定としてどのくらいの高さか。
- ・[荒下委員] 東京湾の中で起きる首都直下地震で M8 くらいのものが起きても 50cm の津波は起きないと言われている。プレート型地震が連動して起きた場合、これまで 1~2m と言われていたが、考える最大のものを政府が検討している。その場合もう少し高くなるかもしれない。そういう想定が出たら、我々としても構造物や場所が大丈夫なのかも一度考え直さねばならない。今のところは高水敷にも乗らない程度である。
- ・[委員] このあいだそうだったのだろう。
- ・[荒下委員] このあいだは 80cm くらいである。想定くらい大きいものが来たと思ってい。高水敷には浸からなかった。我々としても避難場所が一時期でも逃げる場所になっていることは今後注意してオペレーションしないとダメである。
- ・[委員] 細かいデータが区民としてわかっていない。河川敷が安全である、避難場所として安全であるという安心感を持ちたい。
- ・[荒下委員] 江戸川区のように地盤が低く街中に避難する場所がない人は、安心感を持たない方がいいと我々は思っている。火事よりは安全な場所があるかもしれないということで、避難場所というのは名前がよくないかもしれないが、相対的にみるとそっちの方が安全な場所であるというところで、避難所の安全とは違う。
- ・[議長] 火災等から一時的に逃げる広場で、収まった場合はまた別の所に避難していく。長時間いられる想定ではない。ハザードマップで見るとわかるが、荒川河川敷と東大島の公園が避難場所になっている。江戸川側はまた別である。市川の国府台公園が指定されている。
- ・[委員] 橋が落ちたら行けない。東大島も江東区の人もある。川が小さいから、橋が落ちても旧中川を渡ればすぐである。荒川の場合はそうはいかない。陸の孤島になってしまう。この間、NHK で東京湾直下型地震が来た場合のシミュレーションをやっていた。湾の中で地震が起きたら、共振というのがあり、半端な津波ではない。入ってきた水の出口がなくなり、水同士がぶつかり、大きな津波を起こすらしい。
- ・[荒下委員] 静振と言って共振状態が長時間続く。
- ・[委員] 想定外という言葉は使わず、来て当たり前と思った方がいいと話してい

た。春以降中止になったイベントの予算で、小松川平井地区のハザードマップを作ることになり、防災委員会を行った。学校にある洪水の標識を知っているのは管理職か区の土木関係で、区の職員全てが知っているわけではなく、地元の町会長や自治会長も知らない。どこまでが水位の危険水域か明確に太い線で校舎に入れ、地域住民がわかるようにする。避難する場合のきめの細かい、避難場所と避難所とは違うという理解の仕方も区分けしようということで、住民の逃げ道を早く作る。

- ・[議長] 赤の線がキャサリン台風の時の水位である。
- ・「区委員」干潮、満潮、高潮対策という潮位、一番近くの堤防の高さを校舎や公園の防災無線、駅前に設置している。
- ・[委員] 荒川を平井の方からみると結構高い。
- ・[区委員] 人工で掘られた荒川がなぜここに流れているか。一番低い所を狙って川が計画されている。
- ・[委員] 川の方が土があって、町にはない。
- ・[区委員] 江戸川区の中でも平井・小松川と対岸の東小松川が低い所である。
- ・[議長] 江戸川区役所前の荒川の水位を見ると怖い。江戸川区が考えていかなくてはならないことがたくさんある。
- ・[委員] この中で河川敷とはどこにも書いていない。「『壊れない堤防』を実現し、洪水時には避難できる高台として機能」という言い方をしており、河川敷は含んでいないような気がした。機能という形から行くと、概要版にもあるように一時避難場所として河川敷、また防災の救援活動の場としてとあり、この文章がそのまますんなり出るのではないかと思った。もうひとつ、浸水の関係で色分けのポールが立っているが、町会長が知らないというのはびっくりした。
- ・[委員] 私も知らなかった。
- ・[委員] 私の住んでいる所には防災会があり、中央広場の時計台にラインを引いてしまった。それを見てこんなに低いのかと住民がびっくりした。
- ・[委員] 60 町会近くの連合町会を組織しているが、知っているのは数人である。訓練を長年やっているとまあなあになる。今年は 3.11 で住民の意識が高くなった。通常は質問も出ないが、地震を体験して参加者が増えた。
- ・[委員] 洪水時に避難できる高台を知らないと、避難できない。知らしめることをいろんな所でやってくれている。
- ・[議長] 高台というのは土手ということか。
- ・[委員] 一部はスーパー堤防になっている。その辺をここで言われていて、機能をもっと強化していこうということがこの後出てくる。概要版でもしっかりスーパー堤防のことが謳われているので、マッチングすると思う。
- ・「議長」 3.11 がよい教訓となっている。次に「身近な自然空間」ということで 2 点出ている。「スポーツ・レクリエーションの場として」は今、十分活用しながらやっている。
- ・[委員] 市民の意識としては、小松川千本桜は知っていても後ろにある大きな防

災公園は知らない。

- ・[委員] 江戸川区の管理エリアと東京都の管理エリアとがマッチングしていないから、地元においても違和感を感じる。防災訓練等で使う時に一々管理事務所に行って、江戸川区の職員が気の毒な思いをしている。いざという時にみんな来るのだから、東京都は江戸川区と共通の認識を持ってほしい。
- ・[委員] たたき台に大島小松川公園のことが書かれていない。
- ・[区委員] 大島小松川公園は防災拠点でもあり、身近な自然空間の最たる所でもあり、スポーツ・レクリエーションの場でもあり、記述するに値する。
- ・[議長] せっかくあるのだから、加えてはどうか。
- ・[区委員] 記述を加えたい。
- ・[議長] 平井運動公園、小松川運動公園、大島小松川公園と3つ並べて書き入れるということではよろしいか。「水面」の利用についてはどうか。江戸川区のボート協会の人たち・・・
- ・[委員] 国体のために地元からも人を出して、一所懸命やっている。
- ・[委員] 東京都ボート協会が、河川を使わせてもらっているのでクリーンエイド活動を実施したいと言ってきている。
- ・[委員] 新中川で実施しているボート競技、新中川フェスタのような形が江戸川区にあるという一つのメリットが、こういう東京都の江戸川ボート協会に反映されていると見ているが、これは江戸川区がそういうものに力を入れているという証しなのか。
- ・[議長] というよりも、江戸川区ボート協会が熱心に活動している。
- ・[委員] 旧中川でもだいぶやられていて、初めは開拓する人は苦勞するが、だんだん周りの理解も集まり関心も持ってくれて、着実にやって来られた。そうでなければ国体は誘致できなかつたと思う。
- ・[区委員] 元々ボート競技は、ボートに限らずカヌー等動力を使わない人手がこぐようなものも含めて、こうしたスポーツが都心の近くで活動できる川は、江戸川、荒川、多摩川等、限られている。みなさんそこに魅力を求めて来られる。川で楽しんでいただくということについては、水辺の都市である区としても、みなさんのバックアップをできる限りやっていく。荒川だとレガッタ、新中川だとフェスタ、旧中川をボートのメッカにということで応援させていただいている。
- ・[委員] 江東内部河川流域連絡会では、だまっていると動力船を入れられるところだった。屋形船が入ってきたりした。
- ・[区委員] 今もそういう意向がある。スカイツリーもできることだから。
- ・[委員] 一度許可すると滅茶苦茶になる。入れていいエリアとダメなエリアをしっかり守って、ボートをやる人たちのためにエリアをきちっと守ってあげることがしないとダメである。何でもやるから、何でも入れてしまうというやり方はうまくない。後でことを始末することは時間がかかってしょうがない。初めからきちんとルールをこしらえておけば、その中で応用していけばいい。

- ・[議長] 最後に「都市活動を支える空間として」平井の水上ステーションとあるが、そんなに活発に利用されていない。
- ・[委員] 定期船が来なくなったからさみしい。
- ・[委員] 平井もそうだが、荒川ロックゲートの所にあるリバーステーションもこの中に入るのか。
- ・[区委員] 江東区、江戸川区に関係なく、防災の緊急船着き場である。
- ・[議長] 次に P.10 の「川づくりの基本方針」に移る。
- ・[委員] 基本方針の 2 つ目〔豊かな自然環境の創出〕で「荒川で繁殖しているコチドリが左岸中堤で営巣しています」というのは、かつては営巣していたことも・・・。
- ・[委員] 泥置き場の浚渫土がコチドリにちょうどいい。
- ・[委員] 「広大な干潟を保全します」に、コチドリのことが書かれている。こういう鳥類の生息環境を大規模自然地として残していきますというのはすごくいいことだが、コチドリの営巣が干潟の保全の例に入るのかなというのがちょっと疑問に感じたことと、今江戸川区でトビハゼが増えてきているので、それが生息できる環境を、というのをに入れてはどうかと感じた。
- ・[委員] トビハゼは絶滅危惧種である。コチドリはたまたま浚渫土を草が生える前に利用するのであって、ずっと利用しているわけでない。3年経つとボウボウになるので、次の浚渫土が来て、そこが浚渫土置き場である限りは使われる。
- ・(議長) コチドリだけでなく、アジサシにも泥の地面がうまく生育場所になっている。本当はそういうものはないはずだが、荒川の流域にそういう場所があって鳥の繁殖にうまく利用されている。3年周期で場所が変わるけれども、そのための浚渫土置き場というわけではない。つなぐかどうか微妙なあたりだが、3年くらいじゃないと草が生えてきて繁殖場所には不適になる。鳥類の繁殖地としては微妙なバランスを保っている。
- ・[委員] とりあえず、浚渫土置き場は続けるということである。そういう時期があってもよしとする。
- ・[議長] 「こうした鳥類の生息環境」の「こうした」がちょっと引っかかるということではないか。「鳥類の生息環境」にした方が幅が広がる。次の文章のミズアオイやコナギを私は全然見ていない。
- ・[委員] 五色池と葛飾区の鉄橋の下に生えていたが、無くなった。あまり適していない。新しく整地等した所に生えてくるが、しばらくすると無くなる。その下の文章がよくわからない。平井の船着き場のちょっと上流の所か。それならそれで。
- ・[議長] ヨシ原について述べられていないが、ヨシ原もトリの繁殖地に使われている部分もあるので。
- ・[委員] 特に小松川の自然地の木工沈床の内側と中土手の内側でトビハゼが繁殖している。臨海水族園でトビハゼの調査をしたいと言っており、トビハゼに適した条件になっている。一言これを守ると書いていただいた方がいい。

- ・[議長] ミズアオイはここ数年調査しても見ない。魚類に触れられてないが、テナガエビ、カニが増えてきているので、入れた方がいい気がする。
- ・[委員] 「・河口部の広大な干潟を保全します」の中にトビハゼを追加し、「・」で川に関する豊かな魚類を含めた自然を創出し、保全していくという言葉がはいるといいのかもしれない。
- ・[委員] 真水と塩水との違いが出てくると植物が変わってくる。
- ・[議長] 荒川は混じっている川として考えなければいけない。それが逆に貴重な自然を生み出す元になっている。そういう生物の生息場所でもある。
- ・[佐藤] ヨシ原とイセウキヤガラが繁茂して、トビハゼ、アカテガニ、クルメサヨリも復活し、水がきれいになっている証拠だと言われている。それについても一言入れていただいた方がいい。
- ・[議長] 荒川の中で生息しているものが、陸地側は書かれているが、水の中の生き物が抜けているので一文加えたい。レクリエーションの中に釣りが出ていないが、それを楽しんでいる方も結構いる。言葉は変わるかもしれないが、「トビハゼ等川の中で生育する生物の保全にも・・・、自然の創出は重要である」と入れる。次の「都市的利用・レクリエーション」はどうか。
- ・[委員] 舟運ということが出ているが、大きな船でなく小さい船でもいいから、川と海を行き来して楽しむというのがあっていい。新中川にはボートを係留する場所がたくさんあるが、荒川にはあまり小さい船は出入りしていない。
- ・[議長] 新中川は無秩序にボートが置かれた結果、係留場所ができた。荒川はそれがないからいい。
- ・[委員] 新川あたりの和船を出してやった関係を思い出すが、中川側にもああいう和船を入れるという形をとってくると、両方が活用しやすいのではないかと考えるが。
- ・[委員] 和船は荒川には運び出すことができない。あれは新川だけのものである。
- ・[委員] 下から3行目の表現でちょうどいい。
- ・[議長] これ以上ヨット等がああ周辺にあふれてほしくない。
- ・[委員] 水上バイクがうるさく、魚がちぎられて浮いてくる。ゆったり楽しむ船が増えてほしい。
- ・[委員] P.10の中ほど、『治水安全度の向上』の（記載内容を調整中）は次回に案が出るのか。
- ・[区委員] 要約をここに入れ、詳しい所はもう少し後に書く。次回、お示しする。
- ・[議長] P.11「土地利用計画」についてはどうか。
- ・[委員] 自然保全地は、ずっと草を刈らないとタヌキが住んで、誰も近づけなくなる。モニタリング調査だけで、草刈りはどう考えるか。
- ・[議長] 都市型の中の自然保全地なので、1年に1回の草刈りが必要だという気がしている。子どもが中に迷い込んだ場合、草の丈が背より高くなって姿が見えなくなると危険である。
- ・[委員] 冬に枯れ草になるとよく火事が起きる。自然保全地だからと言って草刈

りをしないとそういうことが起きる。

- ・[委員] 荒下からは保全地の手当てに対する予算などはまかりならんというスタイルだと思うが、関心はあるか。
- ・[荒下委員] 高水敷の草を刈るような予算はいただけないのが実態で、特定の外来種の対策で数年に1回できるかもしれないが、定期的な草刈りに対する予算はないのが現状である。
- ・[委員] そういう状況だが、これからやる市民参加で1回だけでも草刈りするとかはないか。荒川は身近な自然だが、放っておいてはいい自然にならない。
- ・[議長] そういうボランティアは拒まない。
- ・[委員] そういう議論になれば、ボランティアを集めることが可能になる。
- ・[委員] 目的があるとできると思う。
- ・[委員] 保全地には絶対に手を入れてはいけないということではなく、自然環境を保全するためにエリアを分けたから、保全するための活動は拒まず、市民のできるのであればちゃんと管理をした方がいいと考えていいのであれば・・・。
- ・[委員] そういう定義づけをしておかないと・・・。
- ・[議長] 人手を入れないとかそういう・・・。
- ・[委員] そういうことでないと、きちんと自然保全地とはのところにしておかないと、定義を注釈しておかないと今後10年間で誰もわからなくなる。
- ・[議長] 本当の自然に任せた形ではなく、都市型の自然であるので、特定外来種のはびこりを抑えるためにも、年に数回の手入れは必要であるという考え方を・・・。
- ・[委員] 補足か何かで入っていると安心できる。
- ・[委員] その下の自然利用地にはバッタやイナゴがたくさんいるが、年に数回草刈りをしている。そこまでしなくても年に1回の枯れた草を刈るだけでもいい。そうしないといい自然にならない。
- ・[議長] 江戸川区だけの問題ではなく、2市7区全体で自然保全地のイメージをつくらないといけない気がする。ただ、江戸川区ではこう考えるという線を出しておいていいと思う。
- ・[委員] 西新井橋上流の検討会をやっている場所はヨシ原があった所で、シダレヤナギがたくさん生えてヨシが枯れている。本来ヨシ原であるべき所がシダレヤナギの林になっているので、木を切らねばならない。余計な木は切ることも必要である。
- ・[議長] 文面はともかく、江戸川区としての自然保全地の定義を入れるということではどうか。
- ・[委員] P.11に「継続した維持管理とモニタリング調査を行う仕組みづくりを構築し」と書かれている。

⇒荒下：今日配布していないが、2010 推進計画の中で「自然保全地とは自然環境の保全を主目的とし、人の利用を前提とした整備は行いません。管理は自然地が荒れ地とならないよう配慮しつつ最低限程度にとどめ、原則として市民の立

ち入りは外来種の駆除、不法投棄、漂着ゴミの処理等の管理および環境状況の把握のためモニタリング調査を目的とした活動のみを行います」と記載されている。

- ・[委員] それは定期的な維持管理ではない。
- ・[議長] 定期的なというのは書いていない。手は入れるが、全く手をつけてはいけないという場所ではないという意味合いで書かれている。2010 推進計画概要版の P.9-11 に定義づけがされている。
- ・[委員] 最低限の維持管理を行うという解釈で、外来種を取るのみか草を刈るかで違いが出てくる。
- ・[議長] ここに出ている言葉としては最低限の環境管理である。
- ・[委員] 一応やらないということではない。
- ・[議長] 草刈りをやらないということではなくて、最低限はやるという解釈でよいか。
- ・[区委員] 具体的に言うと、荒川の自然地の景観のありようはヨシ原があるのがいいのか、植物性に任せてヨシ原からヤナギが生え木本類が増えるのを認めるのか、その捉え方に行きつく。
- ・[委員] 9月10日のクリーンエイドの説明会での講演で、鬼頭秀一東京大学大学院教授が、人間が管理する自然ということといいという趣旨の話があり、みんな納得した。荒川ならヤナギの野原になるよりはヨシ原やオギハラが望ましいし、それが持続するような手入れをすることでよいのではないかということである。ヤナギが生えたら管理上もうまくない。私は、草原として維持するということがいいのではないかと思う。
- ・[議長] 洪水で流れてくるのはヤナギの木が多かった。一面のヨシ原は誰も考えていないと思う。ヨシに占領されると他の草が生えてこなくなるので、ヨシもあるが草原としての自然保全地というイメージでいるのではないか。
- ・[委員] 水際はヨシ原である。
- ・[議長] それから入ってくるところはいろんな植物が生えている草地という考え方で保全地を捉えているのでないか。ヨシだけでは生物相が単調になり、小さな昆虫類がいなくなる可能性もある。
- ・[委員] 高水敷はいろんな草が生えて、水際はヨシに侵されている。
- ・[議長] 江戸川区の皆さんの持っているイメージはそれでいいか。
- ・[委員] P.12 上から3行目からは新しい提案である。管理課はここまで手が回らないと言っている。これがあればクリーンエイドをやりやすい。これをぜひやろう。荒下から自発的に、または荒下でなくても自治体で必要なとやってもらえばありがたい。小松川は江戸川区にやってもらっている状況である。
- ・[委員] 木工沈床の整備がだいぶできているが、それがあある範囲内だけでも水辺側に草刈りができるような形は考えてもよいのではないかという気がする。荒川全体で木工沈床を作った場所はどのくらいあるのか。
- ・[荒下委員] 全川的にはかなり多い。全川にわたり整備を進めており、草刈りも

気持としては同じである。荒下でできなくても協働で何かしらしたいので、こういう所を書いて共通認識を持とうということである。

- ・[議長] P.13 かどうか。
- ・[委員] 「葛飾区と連続する」は「墨田区と連続する」の間違いである。他にも何か所がある。
- ・[委員] その上の「スポーツグラウンドは活かし」は意味がわからない。
- ・[議長] 自然地とスポーツ用地の入れ替えをやった場所である。「は」を「を」に修正する。P.12 の写真の下の説明の「掘」を「堀」に修正する。
- ・[委員] 中堤のテトラポットのある所は緑の線：直壁護岸タイプになっている。干潟タイプではないのか。
- ・[荒下委員] 現地を確認するが、おそらく護岸があり、その前にテトラポットがあり、その前に干潟ができています。線の場所が正しいかどうか確認する。
- ・[議長] テトラポットの外側に干潟ができる。
- ・[委員] 写真でリバーステーションが工事中と書かれている。
- ・[荒下委員] まだ工事中である。まだ沈下を見ている段階である。来年度も工事中である。
- ・[委員] 3月11日の後に沈下していた。
- ・[荒下委員] 3月11日以前から徐々に沈下させている。
- ・[議長] P.14、P.15 に移る。
- ・[委員] P.15 は古い地図を持ってきているのか。小松川橋の下の高速の下の右岸は P.13 では自然保全地や自然利用地等に直されているが、P.15 は土砂置き場のままである。新しい地区に差し替えてほしい。P.13 は将来像計画で P.15 は現況ということか。

⇒江戸川区：P.13 は計画で P.15 は現況であり、違っている。

- ・[委員] ここにジャンクションができると多少様変わりするか。
- ・[区委員] 前回も説明した通り、江戸川区としては現在の利用を踏襲させていただきたい。必要最小限高速を支えるための脚は必要となるので、できる限り少なくするように首都高速にお願いしている。
- ・[議長] P.15 図6 の写真には何日現在と入れた方が混乱しない。P.16 に現況が書かれているが、事実と反することはないか。
- ・[委員] P.17 の成果で防災センターの建設は未整備とある。P.18 の上の地図では計画されているが、下の地図では「区として防災センター整備の予定はない」と書いてある。矛盾があるので、前を削除してもよいのか。

⇒江戸川区：1996年の段階では計画はあったが、整備予定は当面無い状況である。別の場所に造る計画はある。

- ・[委員] これまでの成果としては、本当は計画があったのが未整備だということがよくよく読めばわかるが、未整備というところから整備の計画があるのかと勘違いしがちなので、成果としては、防災センターの建設はとりやめた、である。

- ・[委員] 一緒にしないで防災センターは別にして、とりやめになったと 1 行追加する。
  - ・[委員] 期待を持たせるなら残し、期待持たせないなら消す。
- ⇒江戸川区：工夫して書いて、変更する。
- ・[委員] できるものだと思っていた。
  - ・[議長] イメージとしては未整備で頭に残っている。
  - ・[委員] 別の場所にとはどういうことか。どういうふうに変ったのか。
  - ・[議長] あってほしい場所である。ロックゲートを作った時に防災センターの話も出てきていた。
  - ・[委員] いつまで待ってもできないなら、はっきりできないと言った方がいい。
  - ・[委員] 実際には避難場所になるのだろう。
  - ・[委員] 東京都の広域避難場所になっている。
  - ・[委員] 北区北赤羽の荒川の堤防の上に、緊急物資を貯める浮間地区荒川防災ステーションがあり、類似のものができると思っていた。
  - ・[区委員] 元々ロックゲートを核として、さまざまな施設に防災機能を持たせて普段は憩いの場とするロックゲートヒル構想というのがある。ただ、中々前に進んでいない部分もあり、整備に時間のかかっているものもある。1996 年以降社会情勢の変化等もあり、ロックゲートの考え方自体も最終形を目指すのではなく、出来るものはどんなものか打合せをしてきた。防災もどういう所にどういう機能を持たせるのが一番いいのか、ハード面もソフト面も含めて、防災機関の連携も含めて議論している。必ずしもここに防災センターを作らないと決めたわけではないし、事業主体が国なのか江戸川区なのかも含めて、もう少し揉んでいかないといけない。もみじ大橋と桜大橋の所に別な意味で防災機能の施設を作る計画が動いていて、そこと混同しているので、記載を整理する。
  - ・[委員] 桜大橋ともみじ大橋は防災道路のために作ったので、そこに作るのは理想的である。
  - ・[議長] 次に P.19 に行く。全体として何かあるか。
  - ・[区委員] P.14 の表 3 で「計」がない。P.16 で「小松川千本桜を愛する会」には校長会や学校も入っているので、「地元の町会、自治会、商店会等」と「等」を入れてはどうか。
  - ・[委員] P.16 小松川の位置と P.21 平井の位置とどちらも「独特の位置にあるといえます」とあり、変えた方がいい。
  - ・[議長] 平井の方を少し変えるということによいか。まとめると、P.8「スポーツ・レクリエーションの場として」に大島小松川公園を入れる、P.10「豊かな自然環境の創出」で汽水の生物の保全ということを入れて、5 行目の文章から「ミズアオイやコナギなど」を取り、「トビハゼ等の」ことばを入れる、P.11、自然保全地については概要版と併せて考え、最低の手入れするという定義で落ち着いた、P.12 写真の下の「掘」を「堀」に修正、P.13 写真で「葛飾」を「墨田」に修正、P.14 表 3 で合計を入れる、P.15 図 6 に日付を入れる、P.16「地

域と荒川との関わり」の 2 行目に「商店会等」と「等」を入れる、P.17 「防災センターの建設」と「マリーナ」は入れておく、P.18 「区として防災センター整備の予定はない」を取る。次回は P.21 平井ブロックから P.37 最後まで見てきてほしい。18:00 集合、3 時間計画で、最後まで検討を行う。ところで、今回の議事録で、発言の個人名が出ていた。これは公開する場合もあるのか。  
⇒荒下：ホームページで公開しているが、その場合個人名は消して掲載するようになっている。署名委員への確認用議事録にのみ個人名が出ている。

- ・[議長] 次回開催はどうするか。
- ・[委員] パブリックコメントの前にスーパー堤防に関する記述案も出してもらい、10 月中に議論したほうがいい。先に案を送ってもらいたい。
- ・[区委員] 事前に送付する。
- ・[議長] 第 3 回は 10 月 17 日または 19 日とする。

⇒江戸川区：グリーンパレスの夜間利用制限が解除されたので、空き状況を確認し、グリーンパレスでの開催を優先させる。

### 3 その他

#### ① 署名委員の選出について

- ・谷川委員と佐藤委員が選出された。

#### ② 代表者会議の出席者選出について

- ・佐藤委員が選出された。

#### ③ 荒川クリーンエイド 2011 について

- ・伊藤委員により説明された。

### 4 閉 会